

令和2(2020)年度 第6回

とちぎネットアンケート結果報告書

調査項目

障害者差別の解消について

身体障害者補助犬について

(栃木県保健福祉部障害福祉課)



令和2(2020)年9月

栃木県県民生活部広報課

## 目次

|                |       |    |
|----------------|-------|----|
| I 概要           | ----- | 1  |
| II 調査結果        |       |    |
| (障害差別の解消について)  | ----- | 3  |
| (身体障害者補助犬について) | ----- | 13 |

# I 概要

## 1 調査目的

### (障害者差別の解消について)

県では、障害者差別解消推進条例に基づき、平成 29(2017)年 3 月に障害者差別対応指針を作成するなど、障害者差別の解消に取り組んでいます。同年 8 月からは障害者への合理的配慮を促す一助となることを期して、ヘルプマークの配布を開始しました。そこで、今後の差別解消に係る施策の基とするために、調査アンケートを実施しました。

アンケート結果については、障害者差別解消推進委員会等における今後の施策の検討やヘルプマーク普及啓発に係る施策判断の資料として活用します。

### (身体障害者補助犬について)

身体障害者補助犬法が施行され 18 年が経過し、障害者差別解消法が施行されて4年が経過していますが、依然として身体障害者補助犬の受入れ拒否が存在しています。そのため、県民の身体障害者補助犬への理解を把握するため、調査アンケートを実施しました。

アンケート結果については、身体障害者補助犬の理解促進に向けた方法を検討するために活用します。

## 2 調査設計

### (1) 調査対象者

とちぎネットアンケート協力者(令和2(2020)年度第6回アンケート対象者) 406 名

### (2) 調査方法

電子メールによる配布及び電子申請による回答

### (3) 調査期間

令和2(2020)年9月1日～9月 14 日

## 3 回収結果

とちぎネットアンケート協力者(令和2(2020)年度第6回アンケート対象者) 406 名中 210 名が回答

回収率 51.7%

### 男女別回答者内訳

| 区分 | 回答者数(人) | 構成比(%) |
|----|---------|--------|
| 男性 | 121     | 57.6   |
| 女性 | 89      | 42.4   |
| 全体 | 210     | 100.0  |

### 年代別回答者内訳

| 区分    | 回答者数(人) | 構成比(%) |
|-------|---------|--------|
| 10代   | 1       | 0.5    |
| 20代   | 1       | 0.5    |
| 30代   | 19      | 9.0    |
| 40代   | 53      | 25.2   |
| 50代   | 42      | 20.0   |
| 60代   | 50      | 23.8   |
| 70代以上 | 44      | 21.0   |
| 全体    | 210     | 100.0  |

### 地域別回答者内訳

| 区分   | 回答者数(人) | 構成比(%) |
|------|---------|--------|
| 県央地域 | 101     | 48.1   |
| 県南地域 | 54      | 25.7   |
| 県北地域 | 55      | 26.2   |
| 全体   | 210     | 100.0  |

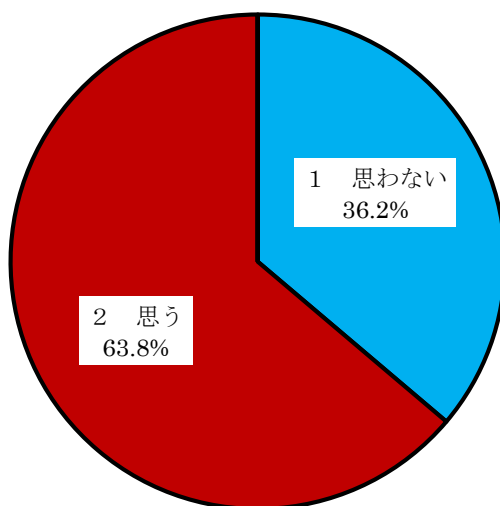
## 4 報告書の見方

- (1) 本文に用いられる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- (2) 百分率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。そのため、単数回答(1つだけ選ぶ設問)の百分率(%)の合計が100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数回答(2つ以上選ぶことができる設問)は、百分率(%)の合計が100.0%を超える場合があります。
- (4) 図表では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合があります。

## II 調査結果

【問1】 あなたは、障害のある方に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。あると思う方は、具体的にどのような差別や偏見かお書きください。（場面、内容、事由などを具体的に記入）（n = 210）

|        |       |
|--------|-------|
| 1 思わない | 36.2% |
| 2 思う   | 63.8  |

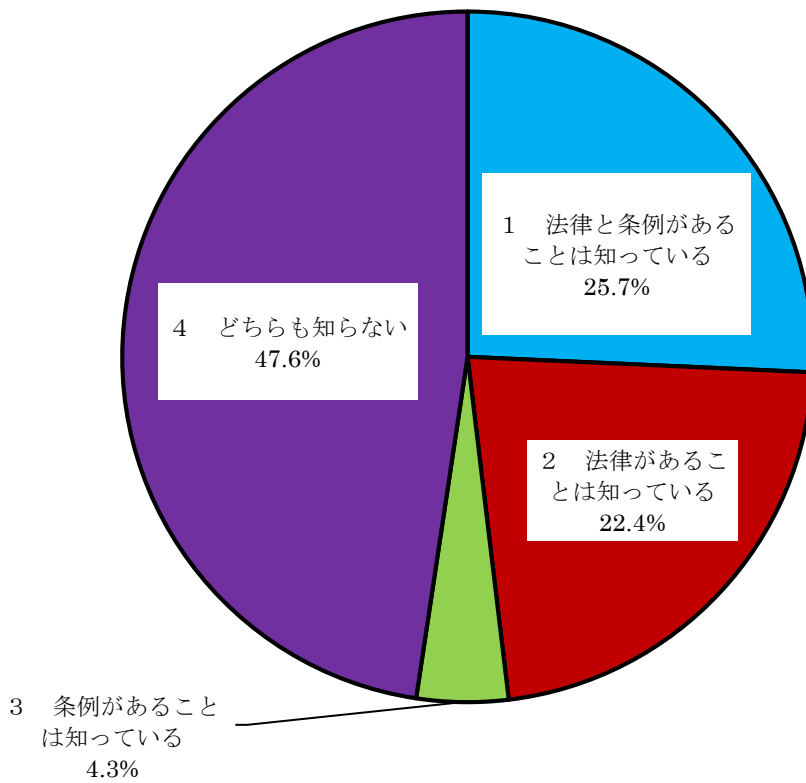


[あると答えた方の主な具体例]

- ・ 健常者と同じようにできないことが理解してもらいにくい。
- ・ 公共施設のバリアフリー化がまだまだ進んでいない。
- ・ 心身の障害を持つ人が、地域のコミュニティーに関わりにくい。
- ・ 学校や日常生活において、知的障害者や精神障害者に対して差別的な言動をする人を目にする。

【問2】 あなたは「障害者差別解消法」や「栃木県障害者差別解消推進条例」を知っていますか。(一つを選択) (n=210)

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 1 法律と条例があることは知っている | 25.7% |
| 2 法律があることは知っている    | 22.4  |
| 3 条例があることは知っている    | 4.3   |
| 4 どちらも知らない         | 47.6  |

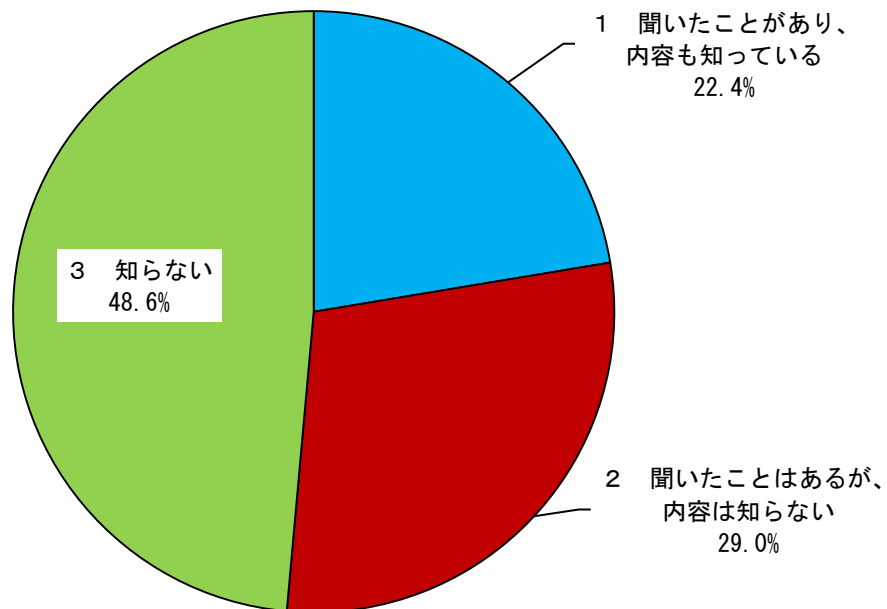


**【問3】 障害者差別解消法や栃木県障害者差別解消推進条例において、「合理的配慮」が求められるようになりました。あなたは、「合理的配慮」を知っていますか。**

**(一つを選択) (n=210)**

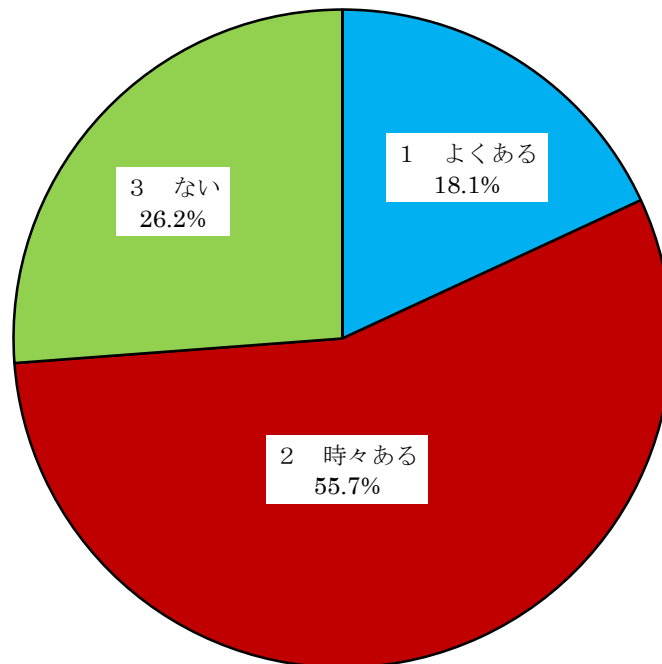
※合理的配慮とは：そのときの状況に応じて、障害のある方が障害のない方と同じように学ぶ、働くなどの社会参加をする上で困っていることを伝えられたとき、過重な負担のない範囲で、対応すること。

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| 1 聞いたことがあります、内容も知っている | 22.4% |
| 2 聞いたことはあるが、内容は知らない   | 29.0  |
| 3 知らない                | 48.6  |



【問4】 あなたは、障害のある方に対して、手助けや配慮をしたことがありますか。(一つを選択) (n = 210)

|        |       |
|--------|-------|
| 1 よくある | 18.1% |
| 2 時々ある | 55.7  |
| 3 ない   | 26.2  |

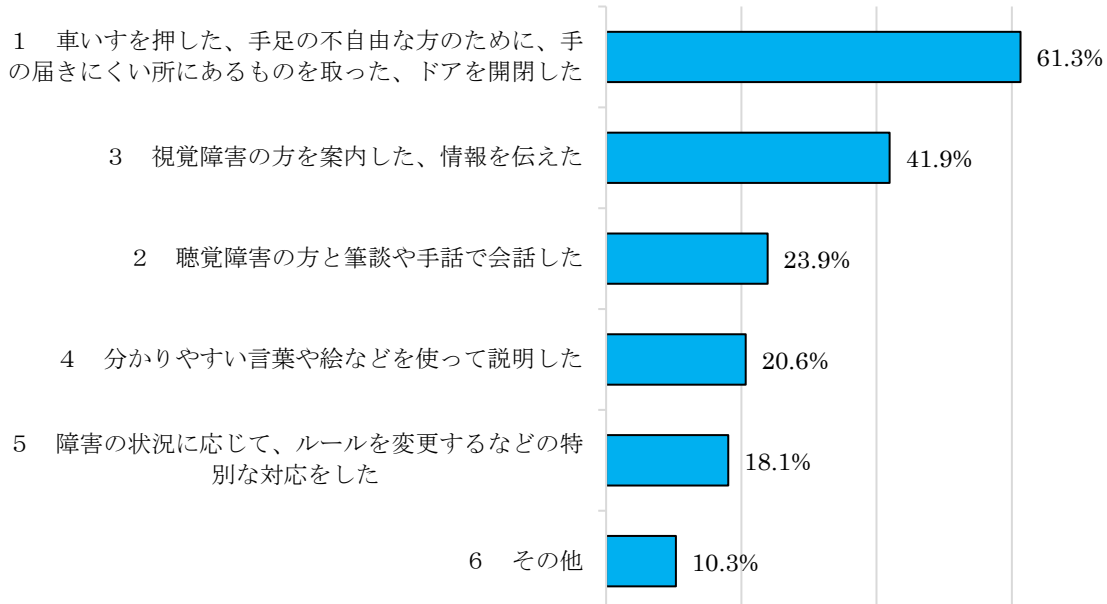




**【問5】 問4で1又は2を選択した方にお伺いします。**

**どのような手助けや配慮をしましたか。(いくつでも可) (n = 155)**

|   |       |
|---|-------|
| 1 車いすを押した、手足の不自由な方のために<br>手の届きにくい所にあるものを取った、ドアを開閉した | 61.3% |
| 2 聴覚障害の方と筆談や手話で会話した                                 | 23.9  |
| 3 視覚障害の方を案内した、情報を伝えた                                | 41.9  |
| 4 分かりやすい言葉や絵などを使って説明した                              | 20.6  |
| 5 障害の状況に応じて、ルールを変更するなどの特別な対応をした                     | 18.1  |
| 6 その他   | 10.3  |



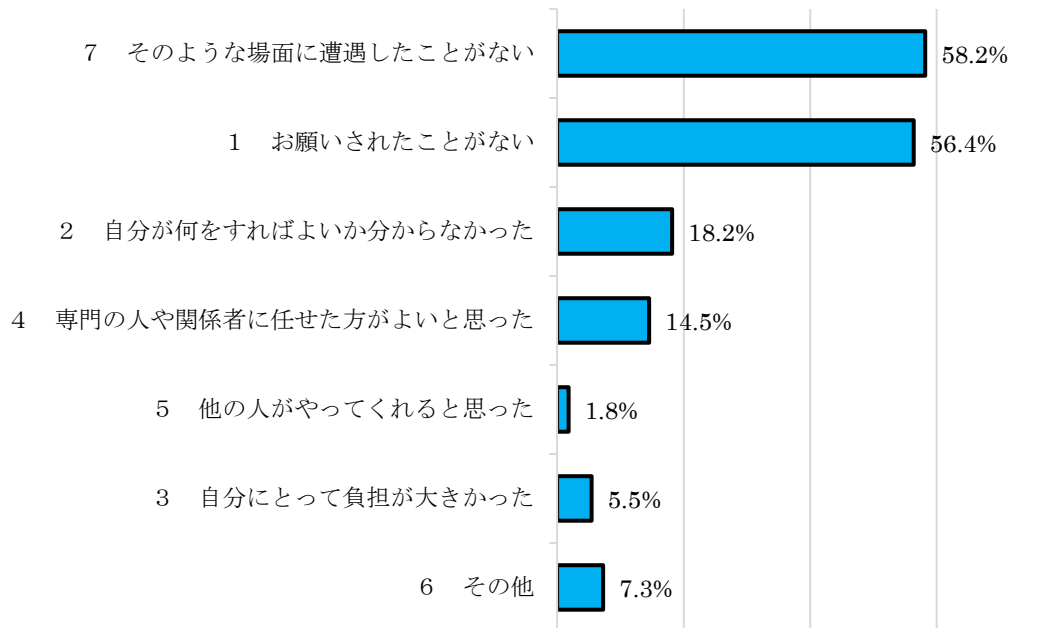
[その他の主な意見]

- 大丈夫か、手伝いが必要か、と声掛けをした。
- 障害により視野が狭く車の運転ができないことから、本人が出かけたいと言う時に車を運転した。
- 知的障害のある高齢者に対して、生活面の相談に乗ったりした。

**【問6】 問4で3を選択した方にお伺いします。**

**手助けや配慮をしたことがない理由は何ですか。(いくつでも可) (n=55)**

|   |                       |       |
|---|-----------------------|-------|
| 1 | お願いされたことがない           | 56.4% |
| 2 | 自分が何をすればよいか分からなかった    | 18.2  |
| 3 | 自分にとって負担が大きかった        | 5.5   |
| 4 | 専門の人や関係者に任せたほうがよいと思った | 14.5  |
| 5 | 他の人がやってくれると思った        | 1.8   |
| 6 | その他                   | 7.3   |
| 7 | そのような場面に遭遇したことがない     | 58.2  |



[その他の主な意見]

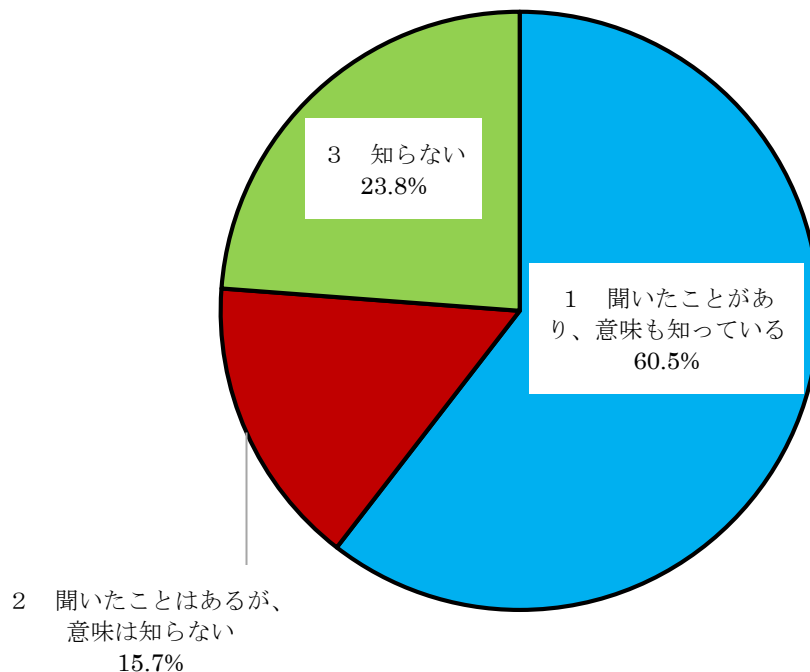
- どのように接すれば良いのか分からなかった。
- 手助けを申し出て、断られた時の不安から行動に移せなかった。

**【問7】 栃木県では、ヘルプマークを導入していますが、あなたはヘルプマークを身につけた人が、手助けや配慮を必要としていることを知っていますか。**

**(一つを選択) (n=210)**

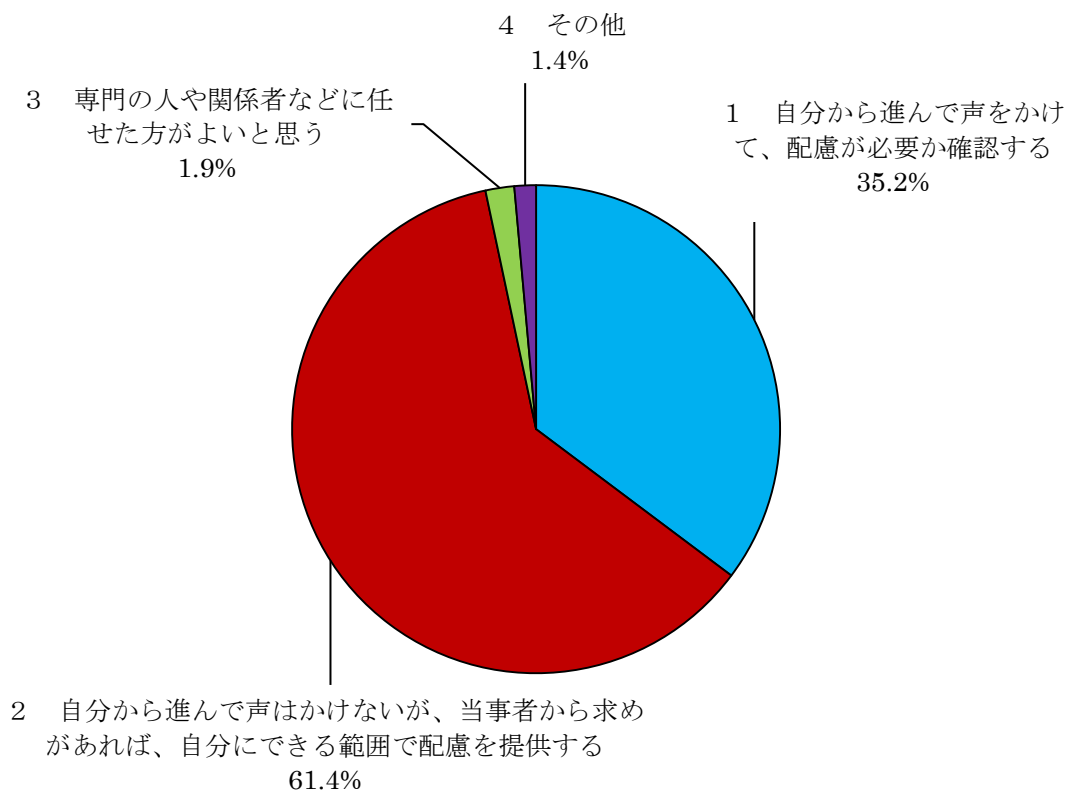
※ヘルプマーク：手助けや配慮を必要としていることが外見からは分かりにくい障害者が、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるマークです。

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| 1 聞いたことがあります、意味も知っている | 60.5% |
| 2 聞いたことはあるが、意味は知らない   | 15.7  |
| 3 知らない                | 23.8  |



**【問8】 障害者から困っていることを伝えられたときやヘルプマークの携帯者を見かけたとき、あなたの行動や気持ちとして最も当てはまるものを次の中から1つ選んでください。(n=210)**

|   |       |
|---|-------|
| 1 自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する                     | 35.2% |
| 2 自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する | 61.4  |
| 3 専門の人や関係者などに任せたほうがよいと思う                      | 1.9   |
| 4 その他   | 1.4   |

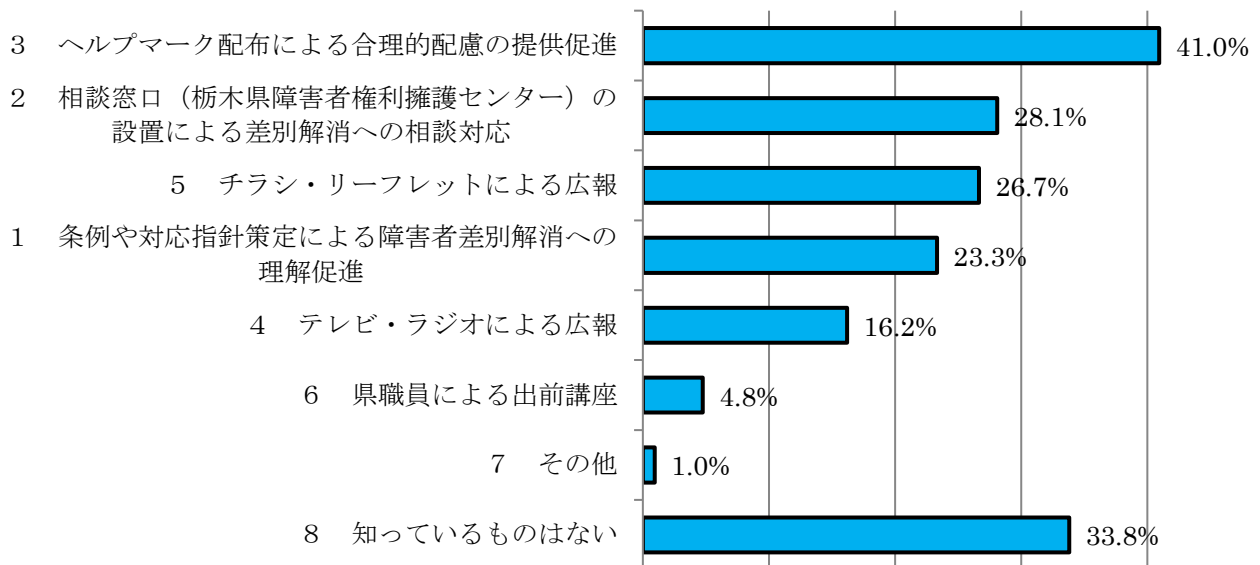


[その他の主な意見]

- ・ 自分のことに精一杯で、他の方を助けるのが難しい。

**【問9】 栃木県では、障害を理由とする差別の禁止や理解の促進に向けて様々な取組を行っています。あなたが、県の取組に関し、知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。(n=210)**

|  |       |
|--|-------|
| 1 条例や対応指針策定による障害者差別解消への理解促進            | 23.3% |
| 2 相談窓口（栃木県障害者権利擁護センター）の設置による差別解消への相談対応 | 28.1  |
| 3 ヘルプマーク配布による合理的配慮の提供促進                | 41.0  |
| 4 テレビ・ラジオによる広報                         | 16.2  |
| 5 チラシ・リーフレットによる広報                      | 26.7  |
| 6 県職員による出前講座                           | 4.8   |
| 7 その他                                  | 1.0   |
| 8 知っているものはない                           | 33.8  |

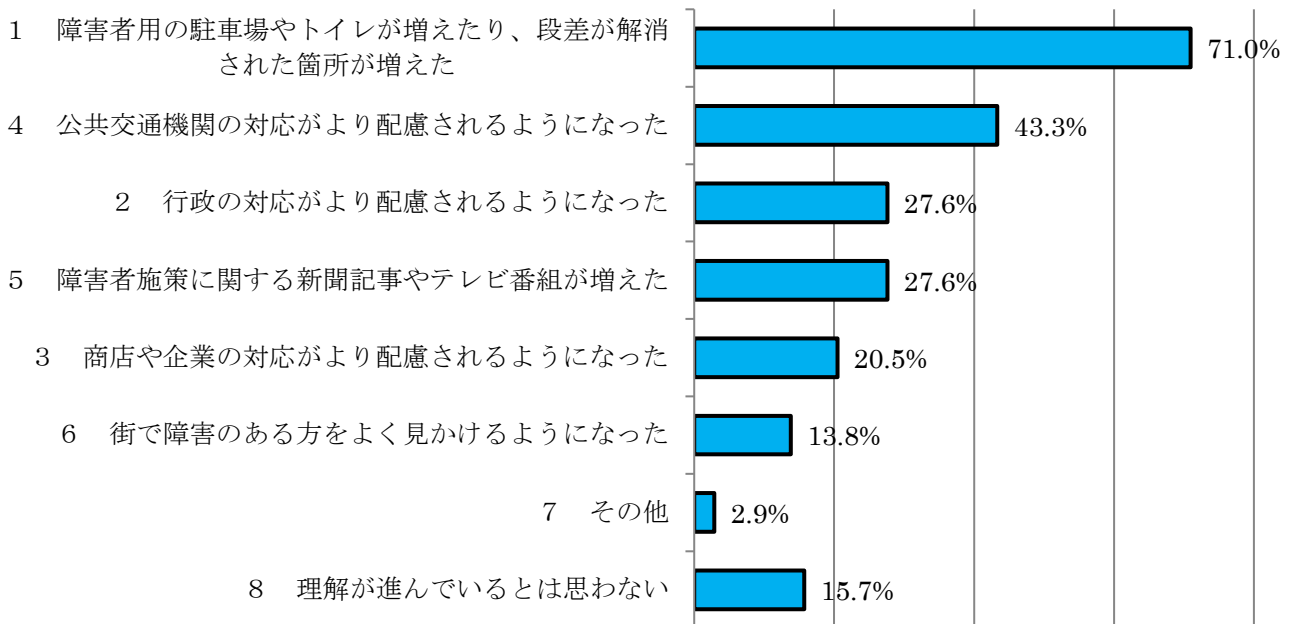


[その他の主な意見]

- ・ 県主催のイベントで啓発活動を見た。

**【問 10】 障害を理由とする差別の解消について、理解が進んでいると感じている点がありますか。次の中からいくつでも選んでください。（n = 210）**

|                                    |       |
|------------------------------------|-------|
| 1 障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた | 71.0% |
| 2 行政の対応がより配慮されるようになった              | 27.6  |
| 3 商店や企業の対応がより配慮されるようになった           | 20.5  |
| 4 公共交通機関の対応がより配慮されるようになった          | 43.3  |
| 5 障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた          | 27.6  |
| 6 街で障害のある方をよく見かけるようになった            | 13.8  |
| 7 その他                              | 2.9   |
| 8 理解が進んでいるとは思わない                   | 15.7  |



[その他の主な意見]

- ・ 雇用の障害者枠が広がっている。

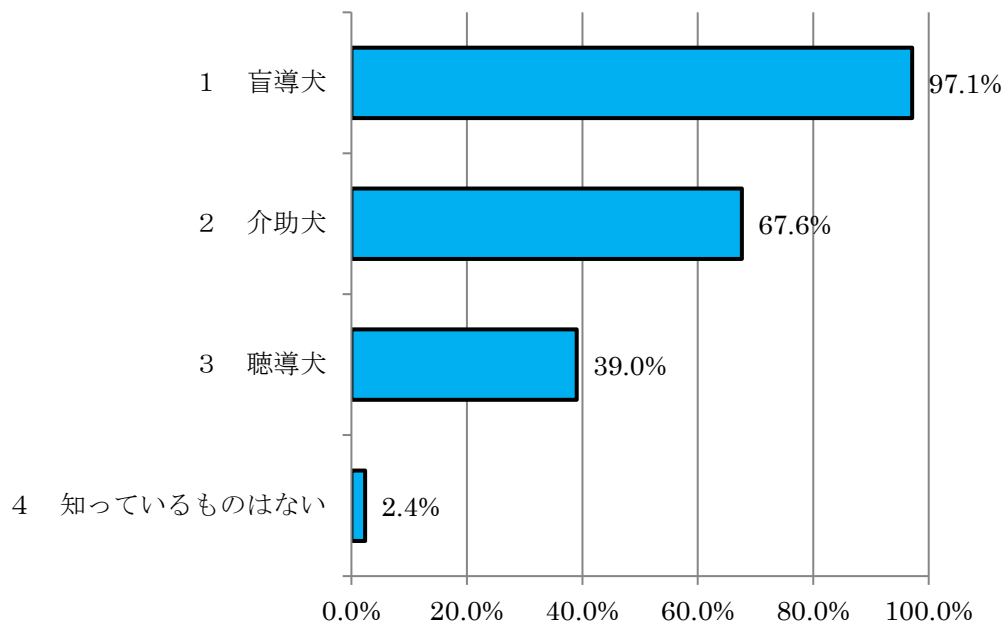
**【問 11】 次に掲げる補助犬（身体障害者補助犬）のうち、あなたが知っているものはどれですか。知っているものを全て選んでください。（n=210）**

選択肢 1：盲導犬とは、目の見えない方が町中を安全に歩けるようサポートする補助犬です。盲導犬は白または黄のハーネス（胴輪）が目印です。

選択肢 2：介助犬とは、手や足に障害のある人の日常の生活動作をサポートする補助犬です。介助犬は、胴着などに表示を付けています。

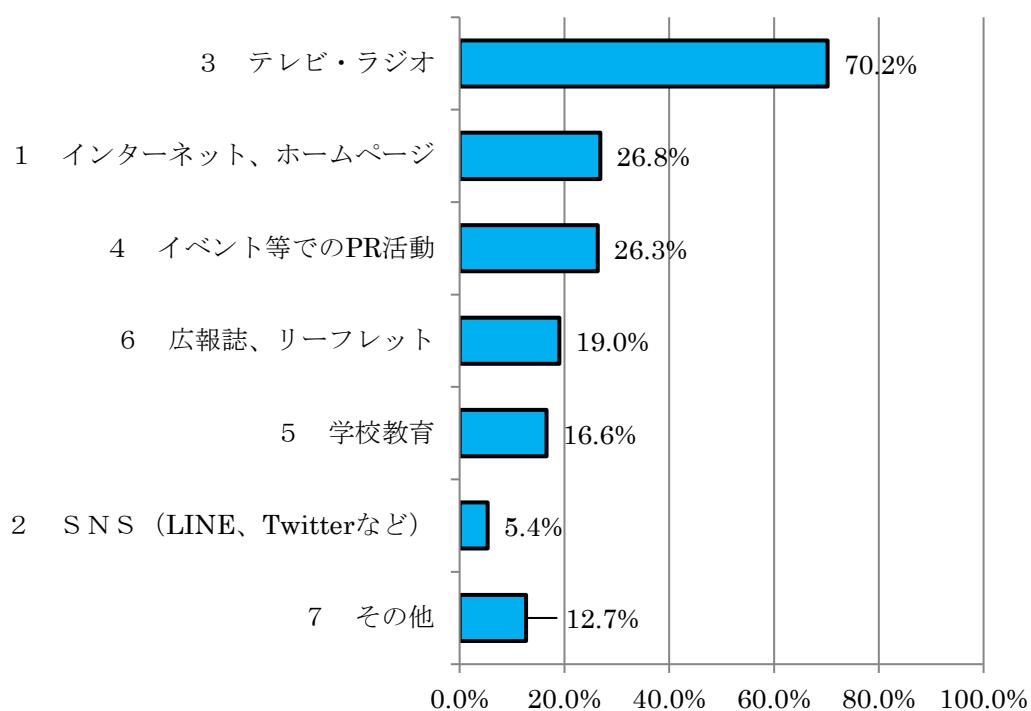
選択肢 3：聴導犬とは、音が聞こえない方に生活の音を知らせる補助犬です。聴導犬は胴着などに表示を付けています。

|              |       |
|--------------|-------|
| 1 盲導犬        | 97.1% |
| 2 介助犬        | 67.6  |
| 3 聴導犬        | 39.0  |
| 4 知っているものはない | 2.4   |



【問12】 【問11】でいずれかを「知っている」と答えた方にお聞きします。あなたは、どのような媒体で知りましたか。(複数選択可) (n=210)

|   |                      |       |
|---|----------------------|-------|
| 1 | インターネット、ホームページ       | 26.8% |
| 2 | SNS (LINE、Twitterなど) | 5.4   |
| 3 | テレビ、ラジオ              | 70.2  |
| 4 | イベント等でのPR活動          | 26.3  |
| 5 | 学校教育                 | 16.6  |
| 6 | 広報誌、リーフレット           | 19.0  |
| 7 | その他                  | 12.7  |



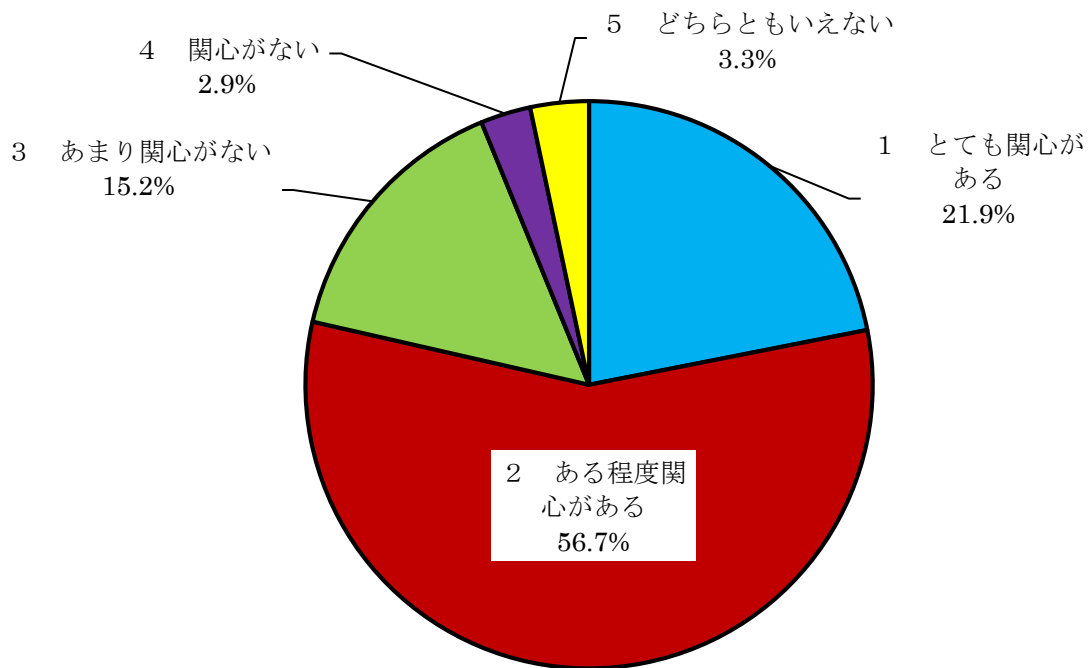
[その他の主な意見]

- ・街中で見かけた
- ・訓練を見たことがある



**【問 13】 あなたは、補助犬についてどの程度関心がありますか。(n=210)**

|   |           |       |
|---|-----------|-------|
| 1 | とても関心がある  | 21.9% |
| 2 | ある程度関心がある | 56.7  |
| 3 | あまり関心がない  | 15.2  |
| 4 | 関心がない     | 2.9   |
| 5 | どちらともいえない | 3.3   |



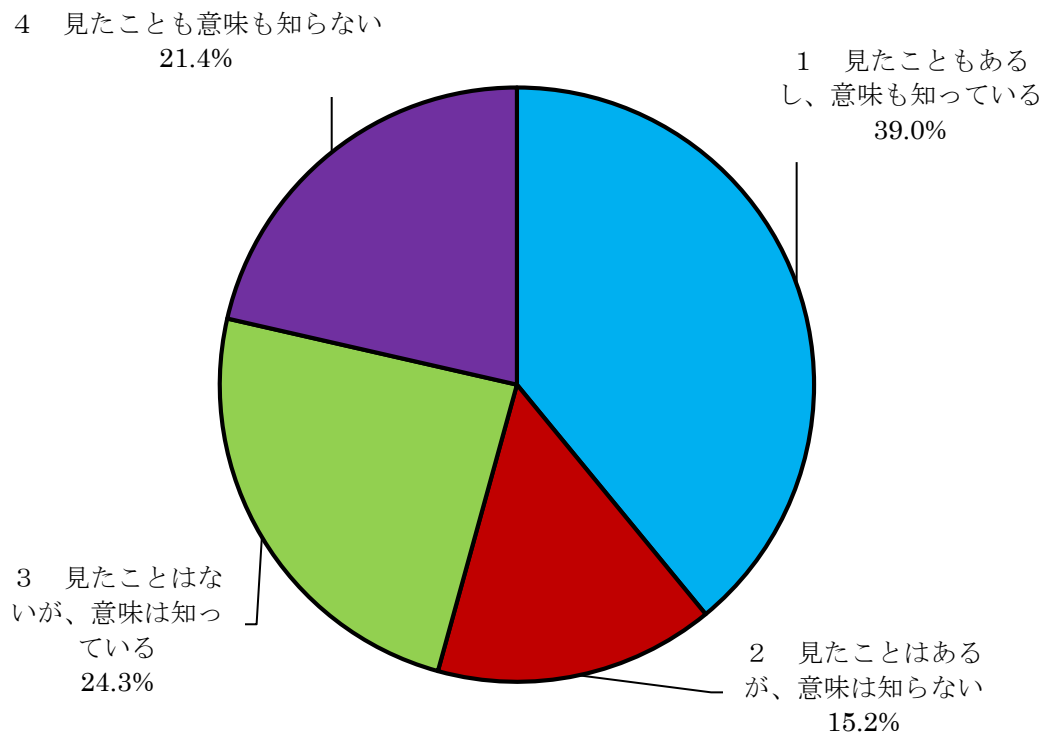
【問 14】 あなたは、「ほじょ犬マーク」を見たことがありますか、意味を知っていますか。

(n=210)



※「ほじょ犬マーク」とは補助犬の普及啓発のためのマークです。店舗入口等に貼ってあります。なお、入店等は法律で認められております。

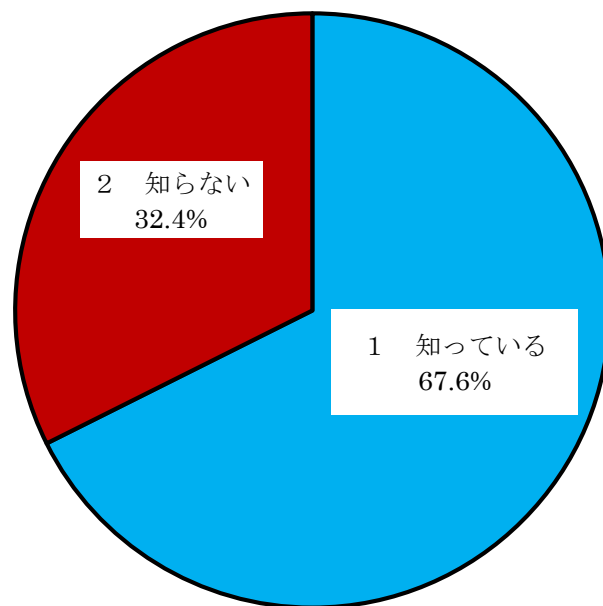
|                     |       |
|---------------------|-------|
| 1 見たこともあるし、意味も知っている | 39.0% |
| 2 見たことはあるが、意味は知らない  | 15.2  |
| 3 見たことはないが、意味は知っている | 24.3  |
| 4 見たことも意味も知らない      | 21.4  |



【問 15】 あなたは、公共交通機関で補助犬の受入義務があることを知っていますか。

(n=210)

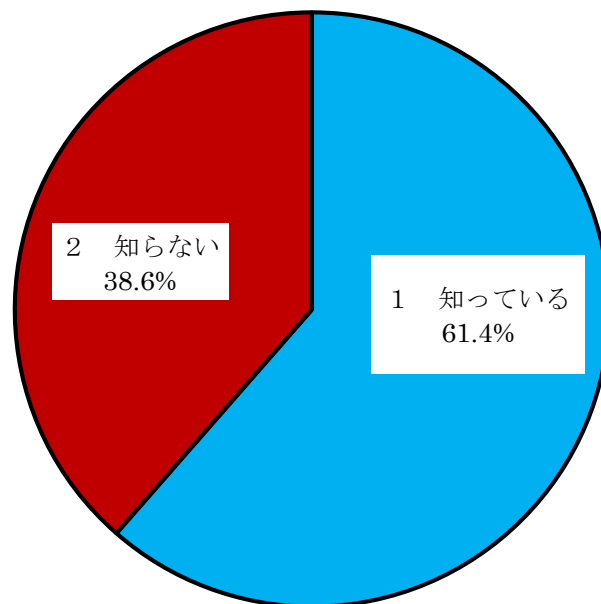
|         |       |
|---------|-------|
| 1 知っている | 67.6% |
| 2 知らない  | 32.4  |



**【問 16】 あなたは、不特定多数の人が利用する民間施設※で補助犬の受入義務があることを知っていますか。(n=210)**

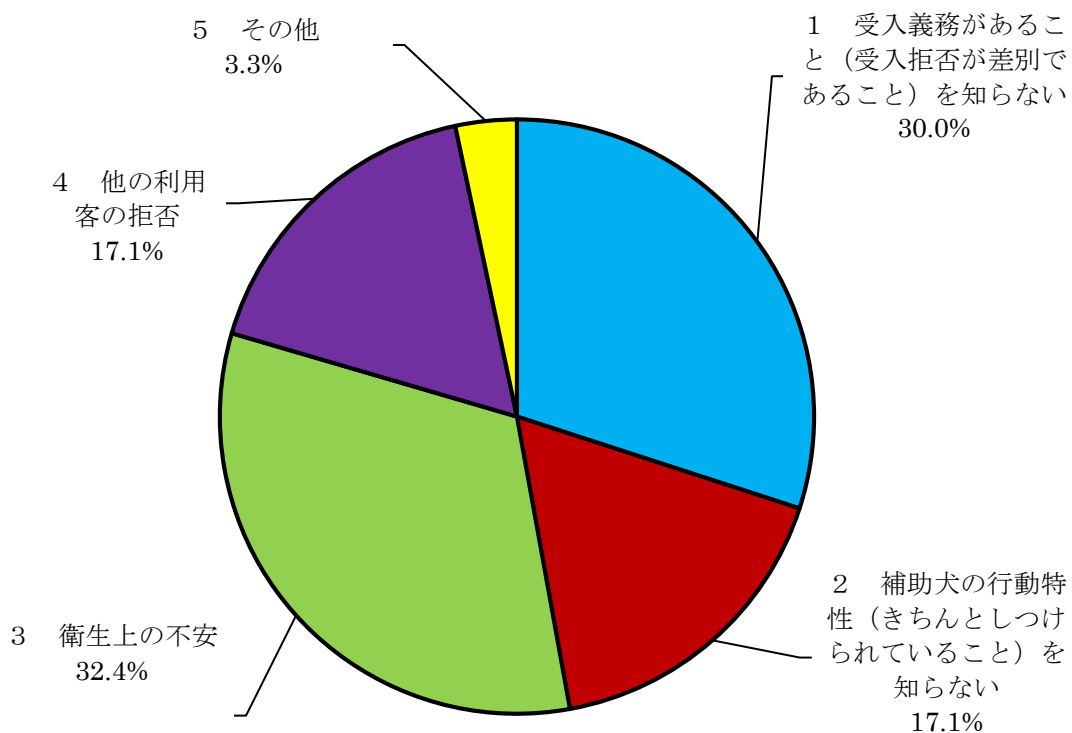
※民間施設とは、飲食店、医療機関、宿泊施設など、不特定多数の利用する一般的な施設です。

|         |       |
|---------|-------|
| 1 知っている | 61.4% |
| 2 知らない  | 38.6  |



【問 17】 補助犬の受入義務があるが、依然として受入拒否があります。その理由として、最も考えられるものを次の中から一つ選んでください。(n=210)

|                                 |       |
|---------------------------------|-------|
| 1 受入義務があること(受入拒否が差別であることを)知らない  | 30.0% |
| 2 補助犬の行動特性(きちんとしつけられていること)を知らない | 17.1  |
| 3 衛生上の不安                        | 32.4  |
| 4 他の利用客の拒否                      | 17.1  |
| 5 その他                           | 3.3   |

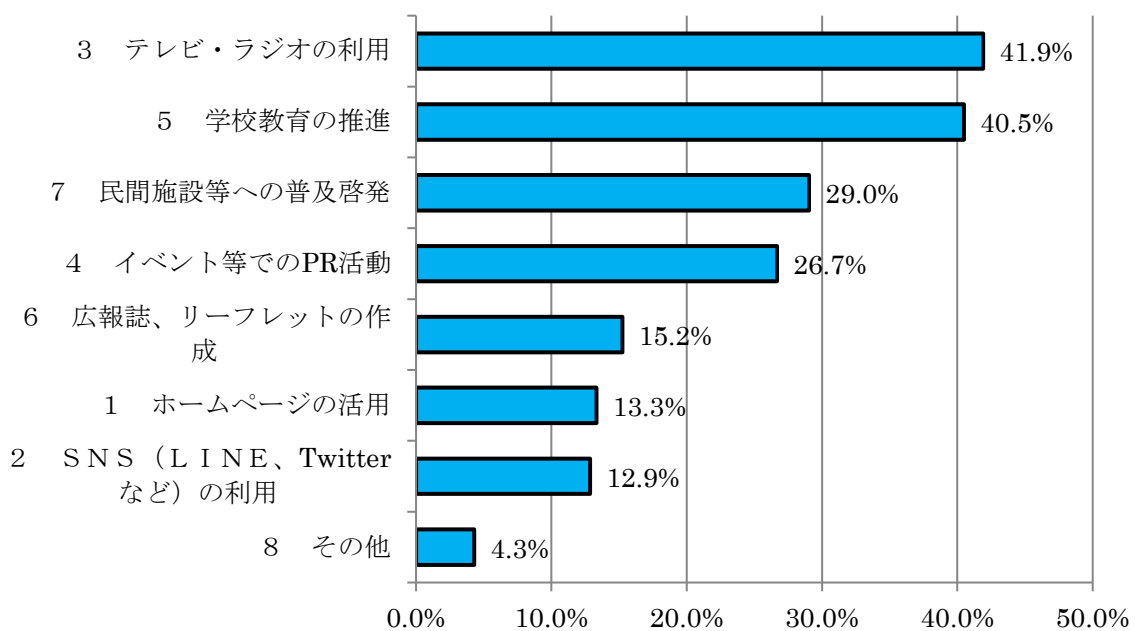


[その他の主な意見]

- ・犬(動物)アレルギーがある人や苦手な人がいるかもしれないという不安・心配
- ・補助犬の日常生活、衛生管理に対する無知

**【問 18】 補助犬への理解促進のために県が行うべきことを次の中から二つ選んでください。(n=210)**

|   |                        |       |
|---|------------------------|-------|
| 1 | ホームページの活用              | 13.3% |
| 2 | SNS(LINE、Twitterなど)の利用 | 12.9  |
| 3 | テレビ、ラジオの利用             | 41.9  |
| 4 | イベント等でのPR活動            | 26.7  |
| 5 | 学校教育の推進                | 40.5  |
| 6 | 広報誌、リーフレットの作成          | 15.2  |
| 7 | 民間施設等への普及啓発            | 29.0  |
| 8 | その他                    | 4.3   |



[その他の主な意見]

- ・補助犬ユーザーによる講演会や交流会
- ・実際に関係を持つ機会が少なく情報として知っているだけで自分のこととは思っていないことが課題

**【問 19】 補助犬について、ご意見や体験談等ありましたら自由に記載ください。**

(n=210)

・未だに補助犬という認識が浸透していなく、受け入れられないのだと思います。自分からイベントに参加しなければ補助犬の存在に疎くなるのでたくさん周知して欲しい。

・知ってはいても、直に接する事があまりないので、理解しがたいのだと思う。そのため、実際にそういう場面にであつても声かけの勇気が出ない事もあるのではないかと思う。学校教育でも必要だと思う。

・最近ラジオで盲導犬に関するCMをよく耳にします。そんな風に色々な媒体でもっと広く情報を知らせる必要があると思う。

・補助犬は犬にアレルギーや恐怖を抱く人もいるので、とても難しい問題だと思う。

・学校での盲導犬講座は楽しい体験だった。介助犬、聴導犬などについても学校やイベントで体験しつつ知っていく機会を増やしてほしいと思う。

・今まで遭遇した事がなかったので、無関心であった。今後無関心を改めたい。

・補助犬のことは知っていても、実際に補助犬を見かけた際のマナーを知らない人は多いと思う。こういった事は、子供を介して周知する方が浸透すると思うので、幼稚園や保育園、小中学校への出張講座が効果的じゃないかと思います。実演してみせる方が分かりやすいし、子供が家でその事を話せば家族にも伝わるし、外でも、子供が大人のお手本になる機会もあると思う。

・飲食の場で犬と一緒に抵抗がある。

・補助犬に対しての周知する場を増やすことが大事かと思う。いまだに、動物やペットという見方が減っていないというのが実際だと思うので、逆にそういう環境を慣れさせる(スーパーや飲食店で常に補助犬が居る場を作る)取り組みが出来たらいいなと思う。

・市中で時々遭遇することがある。だいたい、おとなしく、良く訓練されている印象をもつ。